

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0770403160 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 愛誠会 | | |
| 事業所名 | グループホーム あさがお 東ユニット | | |
| 所在地 | 〒974-8261 福島県いわき市植田町本町1丁目11-4 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年11月9日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年1月24日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県福祉サービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年12月13日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人ひとりの特技や好みを把握し、個々の能力が発揮できるような役割や仕事を任せて、充実した毎日が送れるように努めている。
 ・外出が制限された中、食事で季節を感じていただけるように、旬の食材を多く使い、毎食バランスの良い手作りの“家庭食”を提供し、楽しく食事ができるように心がけている。
 ・職員一丸となりコロナ感染予防対策に取り組み、ご本人・ご家族ともに安心して生活できるよう面会対応等工夫して継続している。
 ・協力病院とは連携を密にし(365日24時間オンコール体制)、早期発見・治療により、健康が維持できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 毎月職場研修を行い、研修内容も実践的かつ様々なテーマで行われており職員育成につながっている。また、業務手順書が作成され、職員間の協力体制もありケアの質の向上に取り組んでいる。
 2. 旬の食材を使い、下ごしらえや下膳等できることを利用者と一緒に行うなど出来ることを継続出来るよう支援している。給食委員会を中心に利用者の好みをメニューに取り入れ、調理担当のパート職員を中心に美味しく温かい食事づくりに取り組んでいる。
 3. 一人ひとりの利用者のライフステージごとの生活歴や趣味、特技などをまとめた「自分史」を作成し、利用者との関係づくりや思いの把握に活用している。また、自分史から把握した工作、編みものや裁縫などの特技や趣味を生かした生活を支援し、役割や生きがいのある自立支援につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホームミーティング時など機会ある度に理念に基づいた支援ができています。職員全員が理念を共有し同じ気持ちで働く事ができているか、確認するように努めています。年度末には理念を見直す必要があるか検討する機会を持ち、時代に合った支援を心掛けている。 | 理念は事務室や各自のデスクに掲示したり業務日誌などの冊子に綴って周知を図っている。毎年、職員全員で見直しを行っているが、変更の必要がないとの結論になっており、また職員間で話し合うことで理念の浸透が図られている。さらに、毎年理念に基づく年度目標を新たに立て、理念の実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ホーム創設時より町内会に加入し、ホームの理解をしていただけるように努めている。災害非常時に備え、ご協力いただける地域の方の名簿も作成済み。またコロナ禍で今年度は見合わせているが、通常は地区の中学校・高校の福祉体験やボランティアも積極的に受け入れしている。 | 町内会に加入し、地域の草刈りなどの共同作業には職員が参加してきた。また、地元の大学の実習や中学校・高校の体験学習、ギター演奏・園芸・傾聴など様々な地域のボランティアを受け入れ交流を図ってきたが、コロナ禍以降中断している。なお、隣接の住人との回覧板の受け渡しは継続して行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 介護相談、認知症相談は随時受け付けており、また「子ども避難の家」に登録している。町内会に高齢者が多いこともあり、災害時等の飲食料品やオムツ類など備蓄を利用してもらえるように伝えてある。近くの公民館の行事の際には駐車場の提供もしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | コロナウイルス感染防止の為、書面にてホームの取り組みや活動内容等を報告し、会議メンバーからはそれについて書面にて率直なご意見を頂いている。書面でのやり取りではあるが、日々のサービスの向上につなげられるように努めている。 | コロナ禍で書面開催としている。当初は、資料の送付のみを行ってきたが、令和3年度の2回目の開催からは返信用の用紙を同封し、意見や質問を出してもらい双方向の会議となるよう取り組んでいる。委員から多くの意見が出されており、運営に活かすようにしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村担当者とは市役所や支所に出向いた際や、電話にて連携を取り、協力関係を築いていけるように努めている。令和2年度には冷暖房設備を、令和3年には避難経路であるデッキを国の補助金事業で新調工事を行った経緯もあり市の担当者とは話をすることが多く持っている。 | 管理者は2か月に1回地区の地域ケア会議に出席している。会議には市の担当者や地区センター長も参加しており、地域の課題等について情報交換を行っている。各種書類の提出等で市を訪問した折には、事業所の実情等を伝えている。また、設備改修の補助金申請等の相談を行いアドバイスや指導を受けるなど協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止に関する研修を行い、全職員正しく理解している。玄関の施錠については家族会で話し合い、「目の前が交通量が多い立地上、施錠をして欲しい」とのご家族全員の意見から施錠を継続している。ただし、職員の対応が可能な限り、施錠しない時間を作るようにしている。施設内は自由な移動ができている。 | 年3回職員に自己チェックを実施し、自分で振り返りを行うことで防止に努めている。また、定期的に研修を実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。交通量の多い道路に面しているため家族会の要望により玄関を施錠しているが、外に出ようとした場合、職員と一緒に散歩に出るなど利用者の行動を制限しないように配慮している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている | 身体拘束廃止委員会を作り、年に4回以上高齢者虐待防止や身体拘束廃止について、また職業倫理やプライバシー保護について研修を行っている。内部研修では職員全員で学び、日々の対応について常に話し合い、処遇に生かしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度については当ホームではまだ実例がなく、勉強の必要性を感じている。コロナウイルス感染予防の為、外部研修に参加する機会が激減。安全に学べるようにZoom環境を整備した。グループホーム協議会や法人内でも情報交換を行い、勉強の機会を持つように努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 時間を掛けて丁寧に説明している。契約時のみの説明では理解しがたいこともあるので、予め契約書を読んでいただき、契約時に再度説明させていただくなど、納得して頂いたうえで契約している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者・家族が意見や苦情を職員や外部へ表せるように、苦情受付電話番号掲示や意見箱を置き対応している。また、面会や担当者会議の際には施設や職員への意見や要望を聞くように心掛けている。意見・要望があった際には速やかに対応するように心がけている。 | 利用者の意見は、日ごろの会話を通して把握している。ほとんどの利用者が会話可能で自ら意見を申し出ることが多い。コロナ禍前は、家族の意見を年1回開催する家族会でも伺ってきた。今は面会時や電話で利用者の状況を伝える時に併せて話を聞いて把握に努めている。出された意見は運営に活かしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者も兼務で介護に携わり、日頃から一緒に業務に就きながら、他の職員と積極的にコミュニケーションを図り 相談しやすい環境を作るよう心掛けている。定期的に1対1で話す機会を設けている。また法人本部の理事長の来訪もあり、職員と話す機会がある。 | 管理者は介護業務にも携わっているため、日ごろの業務のなかで職員の意見を聞いている。また、ホームミーティングの中でも意見を聞く機会を設けている。さらに、時間が取れる時に個別に話をする機会を設け、悩みや意見の把握に努めている。職員から出された意見は、運営に活かしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々の勤務の希望や意見を聞き、得意なところや個性を發揮してもらえるように、常に働きやすい環境作りに努めている。ここ約10年、定年や出産・家族の転勤に伴う離職以外は退職者はいない。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修にはオンライン研修も含め、職員の希望や経験に応じて出席している。その内容を内部研修で復命報告し周知することで、技術・意識の向上に努めている。資格取得制度を設け、1資格10万円までの補助をし、働きながら資格取得ができるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会のZoom管理者会議には毎回出席し、情報交換やアドバイスによりサービスの質の向上につながっている。また勿来田人地区中地域ケア会議に委員として参加しており、地域の他施設や医療機関・警察消防等とのネットワーク作りもできている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 要望や意見を率直に話して頂ける環境づくりをし、傾聴している。初期の段階では思いを十分に伝えられないこともあるので、行動を観察し、不安を取り除き、信頼を確保できる関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス導入にあたり、家族の要望・不安を十分に伺っている。それに対しての経過報告も、コロナ禍で面談ができない場合には電話やメールでこまめに行い、不安を1つずつ取り除き信頼関係を築けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族の“現在”の実情・要望を汲み取り、その時点での必要とする支援を見極め、対応にできるような努めている。法人内の他施設と協力病院主治医と週1回会議を行っており、情報共有と連携の準備ができている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 生活を共にする中で、喜び・苦しみを共に分かち合い、お互い支え合える関係を構築している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ感染症で制限がある中での面会時や毎月の通信・写真で生活の様子や現状の身体症状・認知症状をお伝えしている。家族の協力が必要な場合もあるので、その際は関わっていただけるようお願いしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ感染症対策の為、面会制限中。居室では会えないがガラス越しでの面会をお願いしている。ここ1年以上、外出・外泊もできない状況だったが、手紙のやりとりをしている方もいる。また電話をしたいと申し出があった場合は、遠慮なく部屋で話せるように対応している。 | 以前は、家族をはじめ近所の知人や同級生、元同僚など多くの面会があり、家族等の協力でも外出・外泊・外食を行っていた。馴染みの床屋に通っていた利用者もいたが、コロナ禍以降中断している。今は、窓越しの面会や年賀状・手紙のやり取りを支援して関係継続に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | コロナ感染症の為、ソーシャルディスタンスを保ちながら、利用者同士自然な関わりが持てるよう働きかけている。その中で変わらず楽しく過ごされている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設に転移された際も、訪問して経過を尋ねる関係を続けられるよう努めている。家族にお会いした際は挨拶し、何か相談がある場合は応じられるようにしている。退所して何年も経つが、毎年農作物を届けてくださるご家族もいる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の生活の中で自分の思い、意向を直接伝えることが出来る方については耳を傾ける事に務めている。認知症の進行により困難な方についてはご家族を交えながら出来るかぎり本人の思いに沿えるようにしている。 | 会話可能な利用者は、お茶などの休憩時間や浴室・居室等の1対1になれる時に本人の話に傾聴し、本音や思いの把握に努めている。会話が困難な場合は、利用者の表情の変化を観察し、家族に確認しながら、利用者の「自分史」(職業・趣味・特技やライフイベントをまとめたもの)を参考に推測している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人、ご家族 また、以前担当のケアマネの協力を得て、集めた情報をもとにアセスメントシート・自分史を作成し活用、サービスの向上に繋げられるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者の方の日々の生活を日誌として記録しその情報の中でなにか変化、問題があれば職員で情報を共有している、 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画作成時にケアカンファレンスを実施し、本人、ご家族の要望を聞き、それを踏まえ職員が集まる機会を設け、議題として話し合い介護計画の作成に反映している。 | 家族を交えた担当者会議を開催し、利用者の状況や職員・家族の意見を確認しながらケアプランを作成している。プランは現状に即して改善が期待できるものに重点を置き、中身を濃くかつサービスを多く入れるように心がけて作成している。モニタリングは介護記録を居室担当者がまとめ毎月のケース会議で検討し、次のプランに反映している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別に記録した日誌の情報をもとに状態の変化や何らかの問題が生じた時は介護計画を見直し実践に反映している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個々のニーズに当ホームだけでは対応できない時には、法人内に相談している。それでも解決できない場合は他の機関を利用している。たとえば看取り期の方でエアマットが必要な場合には福祉用具と連携しレンタルで対応するなどしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ前はたくさんのボランティア(傾聴・カラオケ・園芸・紙芝居)が来訪され楽しい時間を過ごしていた。学生ボランティア・実習も毎年たくさん申し込みがあり、とても恵まれた環境だったと痛感している。以前のような日常に戻った際にはまた来訪していただけるように、年賀状やあさがお新聞で現状を伝え、お付き合いの継続をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関の往診が週2回あり、365日24時間体制で受診できるよう整えている。また、協力病院以外にも本人やご家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。 | 入居時に受診の希望を聞いているが、全員往診できる協力医療機関を選択している。かかりつけ医から紹介状をもらい継続した医療を受けられるよう支援している。受診の結果は変更があれば電話で伝え、変わらない場合は毎月のお便りで報告している。眼科・精神科などは家族の協力を得て受診している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師は居ない為、協力病院と連携を密に図っている。体調急変時には医師に上申し指示を仰いで対応している。協力病院は24時間体制で受け入れてくれている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にはホームからは本人に関する情報を提供し、病院からは治療や状態について随時報告をもらい、早期退院に向けて準備をしている。協力病院については、入院期間は毎日病院に出向き、状態を尋ねながら洗濯物や必要物品の補充なども家族に代わって行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状態の変化に応じ、その都度 家族・協力病院と話し合いを持ち、事業所が対応できる最大のケアに努めている。入所時より看取りについて話す機会を持ち、本人・家族の意向に添えるよう努めている。 | 入居時に重度化・終末期対応指針、重度化・看取り指針により説明している。状況変化時は主治医から説明し、看取りについて同意があれば24時間体制で連携可能な協力医療機関や家族の協力を得て看取り支援(緩和ケア)をしている。終末期の事前確認書はあるが活用されていない。 | 本人の意思を早くから確認しておくため入居時に事前確認書で意思を確認しておくことが望まれる。 参考「人生最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン(厚生省平成30年3月改定)」 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時に備え、AEDを設置。また、急変・事故発生に備えマニュアルを作成し、内部研修で全職員が適切に対応できるよう周知徹底している。外部研修についてはコロナ感染症に伴い、参加を見送っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | さまざまな災害に備え、災害発生時を想定した避難訓練を月1回実施している。災害時の協力は地域の民生委員や消防団への通報網を整備し、避難場所も決まっており、家族にも連絡している。 | 毎月、火災・水害・落雷・竜巻などあらゆる災害を想定した避難訓練を実施している。夜間想定時は職員一人体制で行う訓練も行っている。米・水・缶詰などの食料の他オムツなどケア用品も近隣の要介護者の利用も考え多めに備蓄している。非常時に備え、了解いただいた近隣の方への連絡網を作成しているが通報訓練などはまだ実施できていない。 | 近隣の連絡網は緊急時に協力を得られるよう通信方法も検討し、通報訓練を行うことが望まれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者一人ひとりに、人生の先輩として尊敬の念を持って対応をしている。内部研修で「プライバシー保護の取り組みに関する研修」を行い、職員全員で学んでいる。 | 倫理・接遇・プライバシーについて職場研修を行い、尊厳や支援方法について学ぶ機会を設けている。また、日ごろから馴れ合いの言葉遣いにならないこと、入浴時や排泄の際、カーテンやドアを閉め肌の露出を避ける取り組みを実践している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者に寄り添いながら、自身の選択が出来る様に支援している。また、表現ができない利用者は、日頃から、感情・体調の変化を把握しながら、対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりのその日の体調やご気分配慮しながら、自由に選択しながら生活できるように支援している。介助が必要な方は、その時の状況に合わせ、適切な支援をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 個々の好みを尊重し出来る範囲で衣類などを選んで頂いている。身だしなみを整えながら、清潔感を保っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | 家庭環境のような雰囲気を保ち、また、その季節の旬の物を取り入れながら、ゆったりとした気持ちで食事を提供している。 | コロナ禍で食材の買い出しは職員が行っているが、下ごしらえや下膳、お膳拭き等できることを利用者と一緒にやっている。メニューは給食委員会を中心に利用者の好みを取り入れている。職員も一緒に同じものを食べるなど楽しい時間になるよう努めている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | バランスのとれた献立にのっとり、食事を提供。毎日の排泄・健康チェックを記入。利用者、一人一人の持病に合わせ食事を提供している。また、急な体調の変化に合わせた食事にも努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 利用者の方の能力、状態に合わせた口腔ケアを実施。歯磨き、義歯洗浄、口腔内清拭を行い清潔を保持している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 定時でトイレ誘導を行い失禁の軽減、ある程度自立がされている方についても排泄行為の維持ができるよう声掛け誘導をしている。 | 排泄チェック表で確認して失禁する前に誘導する等トイレでの排泄に努めている。声掛けも「トイレが空いたからどうですか」など自主的に行く気持ちを引き出す工夫をしている。夜間はポータブルトイレを置くなど行きたい時に行けるよう環境を整え自立継続に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | できるかぎり自然の排便を促す為、食事に野菜や乳製品を取り入れているが、それでも便秘傾向にある利用者様については医師の指示のもとに下剤を服用して排便のコントロールをしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 利用者様の身体の状態に合わせた入浴方法とゆず湯、菖蒲湯などの季節を感じられる入浴の工夫。本人の意思を確認出来る方には希望を聞きそれに沿った入浴を心がけている。(入る時間や同性介助など) | 週2～3回入浴しており、利用者の身体状況に合わせて対応方法や対応者を変えるなど安全な入浴に取り組んでいる。入浴を浴る場合体重測定と誘い入浴につなげるなど工夫しており、拒否する利用者はいない。また、入浴時間や同性介助などの希望にも応えている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 食後は休憩の時間を作りメリハリのある生活の提供を心掛けている。また日中天気の良い日は日光浴を実施して夜間安眠に繋がるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋のコピーをファイリング、一目で服薬の目的を理解できるようにして職員で共有出来るようにしている。薬を認識出来る方には一緒に名前を確認していただき誤薬のリスクを無くせるように支援している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 昔からの趣味の継続を支援、入居後に新たに趣味を見つける支援と普段の生活の中でそれぞれの役割を見いだせる為の支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 感染対策の為、外出や外泊、行事参加等は控えて頂いている。敷地内・近場ではあるも、天候の良い日は中庭で外気浴や外作業をして頂いたり、公園まで散歩に行かれたりと外界に触れられる様努めている。 | コロナ前は外泊や外食、家族の行事などに参加出来ていたが今は控えている。代わりに庭の草むしりや花壇の手入れなどの作業に参加いただいたり、近くの公園への散歩や花見等にドライブに出かけ、気分転換を図っている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご自分で管理できる方にはお金を所持して頂いている。コロナ禍でもあり、ご自身での買い物は現時点では控えて頂いている。ご希望に応じ、職員が代行し適切にお金が使える様支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 定期的に絵手紙での交流がある方もおり、またご家族からの電話にはその時の状態に応じて本人に繋いでいる。申し出があった際には電話も手紙もやり取りが出来る様支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 適切な温度や湿度、照明等も、天候や時間に応じ調整し快適な生活が送れる様配慮している。デッキや窓を開放し嗅覚や視覚から季節感も感じて頂いている。共用部は清潔の徹底、ゆとりも確保し心地の良い雰囲気作りにも取り組んでいる。 | 補助金を活用しエアコンを全て入れ替えたり、清掃は平日は業者、休日は職員が行うなど清潔で快適な環境となっている。利用者手作りの紙細工などの手工芸品や写真が飾られている。また、雑誌や新聞(2紙)もあり、居間や居室で自由に見られるようになっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホーム内は自由に行き来や移動して頂いている。ソファでお1人の時間を穏やかに過ごされたり、席を移動し気の合う方同士で談笑して頂いたりと思ひ思いに過ごせる空間となっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている | 居室はお1人の落ち着いた空間となる様、プライバシーに配慮している。また、使い慣れ親しんだ家具や寝具等を持ち込み、設置や配置のご希望も伺いながら、自宅に近づけた居心地の良い空間になる様工夫している。 | 居室にはベット、ロッカー、箆箭が備えられている。入居時にテレビ・仏壇・ソファー・お気に入りの毛布・ぬいぐるみ・家族の写真など馴染みのものを持ち込み、利用者と一緒に部屋作りをしている。家具の配置は移動の動線を考えたり、利用者が混乱しないよう配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 日々の生活やかかわりのなかで、入居者の身体機能や理解能力を把握し、それに応じ、また活かした安全と自立の環境作りを工夫している。転倒防止に椅子に鈴の設置、夜間にはセンサーや、鈴、ポータブルトイレの使用等行っている方もいる。 | | |